

事例5 「文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと」をねらった事例

○学年 第3学年

○主な領域 [知識及び技能] (3)我が国の言語文化に関する事項

○事例のポイント

- ①基本点画「おれ」「はね」について、教材を工夫しイメージをもたせるようにする。
- ②自分の課題に気付き、発見できるように練習コーナーを設ける。
- ③友達と作品を共有しながら、自分の作品のよさを見付けたり（広げる）、課題を見付けて調整したり（深める）することができる場作りをする。
- ④ICT端末のカメラ機能を活用し、自分の作品の過程を可視化することで変容に気付き、自分の学びを実感できるようにする。また、友達同士作品を比べ合いながら、友達の作品のよさや自分のよさを見つげられるようにする。児童の学習の過程をデータとして残して、比較できるようにする。

1 単元名・教材名 「おれ」と「はね」の筆使い 『力』

2 児童の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

- (1) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くことができる。 〈知識及び技能〉(3)エ(ア)
- (2) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。 〈知識及び技能〉(3)エ(ウ)
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

伝えたいことを「おれ」や「はね」に気をつけて、手紙などに書く。（関連：言語活動例イ）

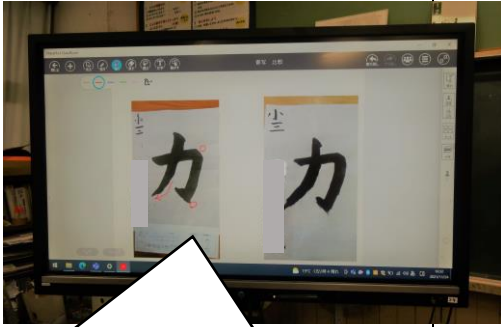
5 単元の評価規準

| 知識・技能 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|
| ①文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。 ((3)エ(ア)) ②毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。 ((3)エ(ウ)) | ①進んで文字の組み立て方を理解し、学習課題に沿って、形を整えて書こうとしている。 |

6 指導と評価の計画（全3時間扱い）

| | 主な学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
|---|--|---|---|
| 1 | <p>○学習のねらいや進め方をつかむ。 ○試書をする。 ○2、3時に向けて振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント① 「おれ」「はね」がある漢字を毛筆で書き、「おれ」「はね」について意識できるようにする。また、「おれ」「はね」という言葉について理解できるようにする。</p> </div> | <p>○文字の組立て方 「おれ」「はね」 ○「力」の書き順</p> | <p>○児童が意欲をもって学習に取り組めるように、「おれ」「はね」のある文字を探させる。 ○自分の課題を見つけるためにICT端末を使う場面を設定する。</p> |



| | | | |
|---|--|--|---|
| 2 | <p>○試書から自分の課題を見付ける。 ・教材文字と比較 個人→グループ→個人</p> <p>事例のポイント② 練習コーナーでは、低学年で使用した水書用筆を使えるようにして、自分の課題に対して何度も練習できるようにする。</p> <p>事例のポイント③ 教材文字が写っている透明シートを試書に重ねることで自分の課題を見付けたり調整したりすることができるようにする。</p> | <p>○文字の特徴の見付け方 ○文字の組立て方 「おれ」「はね」</p> | <p>○練習コーナーを設けて自分の課題を見つけて調整できるようにする。 ○低学年で使用した水書用筆を使い、自分の課題に対して何度も練習できるようにする。</p> <p>【知識・技能①】 観察・練習用紙 ・文字の組立て方を理解し、形を整えて書いているか確認する。</p> |
| 3 | <p>○まとめ書きをする。 ○他にも「おれ」「はね」がある文字の書き方を確かめる。</p>  <p>事例のポイント④ ICT端末のカメラ機能を活用し、自分の作品の過程を可視化することで変容に気づき、自分の学びを実感できるようにする。教師が電子黒板に書き込み、作品のよいところや変容したところに着目させる。</p> | <p>○文字の組立て方 「おれ」「はね」 ○筆の使い方</p> | <p>○第1時に書いた試書と比べて、自分の変容を実感させるためにICT端末を使う場を設定する。</p> <p>【知識・技能②】 まとめ書き ・毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに気をつけながら書いているか確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 まとめ書き・振り返り ・学習課題に沿って、形を整えて書こうとしているか確認する。</p> |

7 本時の学習指導（本時2/3時）

(1) 目標

- 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くことができる。〈知識及び技能〉(3)エ(ア)

(2) 評価規準

- 文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。

【知識・技能】

(3) 展開

| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 | 時間 |
|--|---|---|----|
| 1 本時の課題を確認する。 | ○文字の組立て方 「おれ」「はね」 | ○前時の振り返りを生かして、本時の課題を確認する。 ○「おれ」「はね」の言葉のイメージをもたせるようにする。 | 3 |
| 「力」の文字の形を整えて書くには、どのようなことに気をつければよいだろうか。 | | | |
| 2 試書と教材文字を比べて自分の課題を見付ける。 個人→グループ→個人 | <p>事例のポイント③ 教材文字が写っている透明シートを試書に重ねることで自分の課題を見付けたり調整したりすることができるようにする。</p> | ○試書と教材文字を比べる。 | 10 |

〈期待される児童の反応〉

「おれ」や「はね」の形や方向がちがう。「おれ」や「はね」が上手に書けるようにするためにはどうしたらよいのだろう。

3 「おれ」と「はね」の筆使いについて確認する。

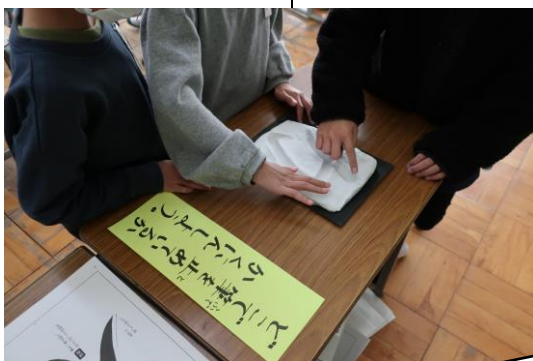
○点画の筆使い
・「おれ」の運筆
・「はね」の運筆

「おれ」「はね」の書き方

- ①横画は右上がりになる。
- ②筆を一度止めて筆が進む方向を変えて書く。「おれ」
- ③筆を一度止めて次の一画に向けて（左上）ゆっくりはねる。「はね」
- ④左下へゆっくりはらう。

4 「おれ」と「はね」の筆使いに気を付けて練習する。

○「おれ」や「はね」の方向に気を付けた書き方を練習する。



編 P36 指導計画作成の留意事項(1)

事例のポイント②

練習コーナーでは、低学年で使用した水書用筆を使えるようにして、自分の課題に対して何度も練習できるようにする。

5 本時のまとめをする。

○文字の比較による確かめ方

「力」の文字の形を整えて書くには、筆を一度止めて「おれ」「はね」を書くとよい。

評価規準

【知識・技能①】

観察・練習用紙

- ・「おれ」「はね」の前に筆を一度止めて、「おれ」「はね」の方向に気をつけながら形を整えて書いている児童をBとする。
- ＜「努力を要する」状況 (C) への手立て＞
- ・筆を止める場所を一緒に確認し、書けるようにする。

- 筆を止めた後に筆が進む方向にも気付かせるようにする。
- 「おれ」や「はね」の前に筆を止めて書いた「力」と筆を止めずに書いた「力」を比べ、筆を止める技法の効果に気付かせるようにする。
- 筆が進む方向を変える時、手首は動かさずに書くように促す。
- 穂先がどこを通っているのか（左側）気付かせるようにする。
- 1、2年で使う水書用筆を使って「おれ」や「はね」の筆使いを繰り返し練習できるようにする。

5

15

3

6 振り返りをする。

〈期待される児童の振り返り〉
 はじめて書いた字と今日書いた字をくらべました。「おれ」や「はね」の方向に気をつけて書くとよく書けるとわかりました。ノートや手紙を書く時にも、「おれ」や「はね」に気をつけて書いていきたいです。

- 試書と比べてよくなった点から、学習で身に付いたことや、今後に生かすことなどについて考えられるようにする。
- 振り返りで、硬筆につなげる。

4

7 片付けをする。

| ⑤「おれ」と「はね」の筆使い (カ) | めあて | チェック らん | こう筆で書こう |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 名前 | ①「おれ」の筆使いに気をつけて書いたかな。 | <input type="radio"/> | たけし書こう まことの書こう カ カ |
| | ②「はね」の筆使いに気をつけて書いたかな。 | <input type="radio"/> | |
| 【振り返り】 もう少しおれとはねがてきたらなと思いました。だからこんどはうまくかけるようになりたいです。そいでノートにかくときもこのなとに気をつけてかきたいです。 | | | |

5